

2019年度 病院医学教育研究助成成果報告書

報告書提出年月日	2020年3月23日
研究・研修課題名	公益社団法人 日本臨床検査同学院：緊急臨床検査士資格認定試験
研究・研修組織名（所属）	検査部
研究・研修責任者名（所属）	川島史祥（検査部）
研究・研修実施者名（所属）	川島史祥、安井亘、大國翼、谷尾成美（検査部）

成果区分	<input type="checkbox"/> 学会発表 <input type="checkbox"/> 論文掲載 <input checked="" type="checkbox"/> 資格取得 <input type="checkbox"/> 認定更新 <input type="checkbox"/> 試験合格 <input type="checkbox"/> 単位取得 <input type="checkbox"/> その他の成果（ ）
該当者名（所属）	谷尾成美（検査部）
学会名（会期・場所）、認定名等	緊急臨床検査士資格
演題名・認証交付元等	日本臨床検査医学会、日本臨床検査同学院
取得日・認定期間等	2019年8月31日
診療報酬加算の有無	<input type="checkbox"/> 加算有（ ） <input checked="" type="checkbox"/> 加算無

目的及び方法、成果の内容①目的

日本臨床検査医学会と日本臨床検査同学院が認定する緊急臨床検査士の資格を取得する。受験に向けて臨床検査の基本的な知識や技術について学び、一般的な日常業務、さらには日当直業務での緊急を要する状況でも適切な判断を行うための能力を身につける。それらの客観的な証拠となる資格の取得を目的とする。

②方法

2019年7月13日（土）、14日（日）に福岡大学において実施される筆記・実技試験を受験した。

● 筆記試験、筆記実技試験：2019年7月13日（土）

- 受付開始 : 13時00分
- 集合時間 : 13時30分
- 注意事項説明 : 13時45分
- 筆記試験 : 14時00分～14時45分
15時00分～16時00分
- 実技試験説明 : 16時00分～16時30分

● 実技試験：2019年7月14日（日）

- 受付開始 : 8時45分
- 集合時間 : 9時15分
- 全体説明等 : 9時15分～9時30分
- 試験会場で移動 : 9時30分～9時45分
- 実技試験 : 9時45分～12時30分
- 受検者解散 : 13時15分

③成果

● 試験内容

▶ 筆記試験

筆記試験は、一般、生化学、血液、輸血、微生物、生理の分野について選択方式（5 択）、20 問出題された。

▶ 筆記実技試験

一般、生化学、血液、生理の分野について出題された。

一般：尿沈渣写真問題数問、計算盤で髄液細胞数カウント(画像)

生化学：生化学の検査データの提示あり、考え得る病態など記述

血液：血液像写真問題、赤血球恒数の計算および貧血の分類など

生理：心電図画像問題数問

▶ 実技試験

一般、生化学、血液、輸血、微生物、生理の分野について実技試験が行なわれた。

一般：髄液の性状判定、染色および鏡検（ピント合わせまで）

生化学：用液の希釈計算および希釈実技

血液：抹消血塗抹標本作成(スライドの作成数は 3 枚以内で、一番良いものを提出する。4 枚目以降は減点)

輸血：血液型検査、交差適合試験の実技(制限時間あり、試験管やスポイトなどの個数制限あり)

微生物：標本の鏡検 2 題および筆記（選択問題 5 問）

生理：心電図測定

試験内容は、筆記試験、筆記実技試験、実技試験の 3 種類が行われた。

筆記試験については、出題範囲は多岐にわたり、幅広い知識が必要であった。

実技試験では、主に日当直業務で行っている基本的な検査が出題されたが、輸血検査における消耗品の個数制限等、実際の緊急検査の現場を想定し、実技試験を行うものもあった。検査手順を間違えてしまうと、やり直しをしても時間制限により検査終了までたどり着けない状況であったため、検査の知識とともに迅速、正確に検査を遂行する能力が要求された。検体系の試験では、ピペット操作による検体の希釈と計算、顕微鏡の使い方と鏡検などを含む内容が確認された。減点対象となるポイントがいくつかあると考えられ、正確な操作が要求された。

● まとめ

今回の試験は、1 名合格、3 名不合格であった。試験内容は昨年とほぼ同様であったと思われる。試験に向けて勉強することで各分野における知識を吸収し、実技の練習によってこれまでの自分の技術が正しく行われているかどうかを確認することができた。3 名が不合格であった理由は、実技面での減点によるものだと考えられた。日常業務を行っている環境とは異なり、時間制限や消耗品の個数制限、使用機材の違いなどがあるため、心理的な面での負担も感じられた。資格取得にはどんな環境であっても迅速で正確な判断のもと、検査を遂行できる能力を培う必要がある。今後は検査室外での業務も増加してくると考えられ、本資格の取得が各現場での対応力にもつながってくるものと思われる。